



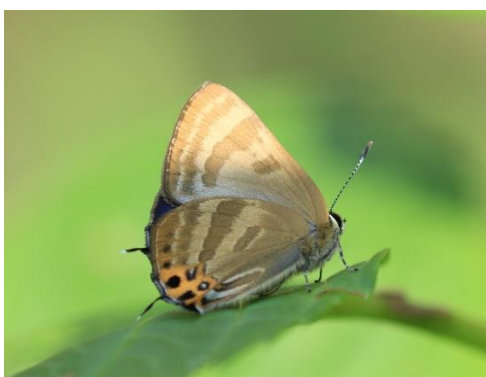
愛川ふれあいの村 今月の風景

2021年6月 自然のたより

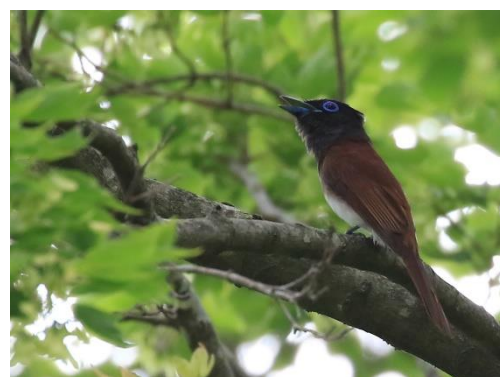
環境月間には、様々なことを考えさせられます。木を切ることや草を刈ること。人にとってはいいことも生き物にとっては...それでも村は生き物にとっていい環境なのだと思います。5月の後半にはハルゼミの鳴き声がし、6月に入るとミズイロオナガシジミなど数種のシジミチョウを見ました。ヒナに餌を運ぶ鳥など、日常ではなかなか見られないことも見ることができます。いい環境に居ながらにして環境月間をかみしめています。(石川)



ミズイロオナガシジミ



トラフシジミ



サンコウチョウ



ユキノシタ



エビガライチゴ



ヤブムラサキ



ウツボグサ



シマサシガメ



クヌギカメムシ



ヒナへ餌を運ぶホオジロ



ヤマガラの給餌



ミヤコグサ



イロガワリ?



ハギリカガ々とコガガタ



ヤツメカミキリ

トピックス ★ドラマチックな進化★

「目に青葉、山ホトトギス、初鯉」新緑のころ夏鳥として東南アジア方面から日本に渡って来るホトトギスはカッコウの仲間です。比較的多く渡って来るのはこの他にツツドリとジュウイチがいます。

村ではホトトギスとツツドリの 2 種類が観察されます。特に今年はツツドリが多いような気がします。朝、自然観察路の方から「ポポポポ…」と名前の由来となった空筒を打つような声が響きます。ホトトギスも「特許許可局」と聞きなされる声で鳴きながら飛び回っています。しかし、何れも声はすれども姿は見え、まるで忍者のようです。

これらカッコウの仲間は自分で巣を作ることはなく、子育ては一切行いません。親鳥は他の鳥の巣に卵を産み落とし、後は知らんぷりをして仮の親に育ててもらい、いわゆる托卵という習性があります。托卵される鳥もほぼ決まっています。ホトトギスはウグイスに、ツツドリはセンダイムシクイの巣を主に利用します。そして、不思議なことに托卵された卵が先にかえります。そのヒナは本当の親の卵を全て巣の外に落としてしまいます。人の世界なら「コーッ、何やってんだ!!」と一喝ものですが親鳥は下に落ちて割れた卵を呆然と見ているだけです。

巣と親を独り占めした偽物のヒナは仮親の愛情を一身にもらい成長します。仮親はいつの間にか自分より数倍大きくなったヒナを必死に育てます。一方、仮親も騙されてばかりではありません。卵の識別能力を習得し托卵された卵を排除（捨てる）する種も出て来たりします。するとホトトギス達はさらに卵の模様を似せたり、新たな托卵先を開拓したりします。まさに種の存続をかけた進化のドラマが繰り返されて

(高梨)



生き物 ★ゲンジボタル★

私が愛知県の小学校に通っていたころ、生徒たちで協力してビオトープを作り、翌年にはホタルが飛び交うまでになりました。あれから十数年…めっきりホタルを見る機会がなかったのですが、先日、夕涼みに近所を散歩していると、アジサイの葉の上に光の粒がひとつありました。…光の粒？近くによって見てみると、そこには一匹のホタルがいました。小さいながらも蛍光はしっかりと輝いていて、周囲を見回してみると、そこかしこでぽつぽつと煌めくホタルの光！感動してカメラを構えてみるも、ホタルの光はなかなか上手く撮れず。写真はあきらめて美しい光景を目に焼き付けることにしました。

子どもころに見たホタルの光の美しさは、今でも変わらず、うっとり見入ってしまいました。情緒あるこの光を、いつまでも見守っていききたいですね。(井上)



旬 ★梅の実★

梅は春を告げる花として親しまれています。花が終わった後の楽しみは、『梅の実』。6月になると、お店に梅の実を目にする事が多くなります。梅酒・梅シロップ・梅ジュース・梅ジャム等、楽しみがいっぱいです。

6月の初旬青梅・6月中旬黄色い梅。

青梅は、豊かな酸味とさわやかな風味が引き立ち、梅酒・梅ジュース・カリカリ梅等に。

少し黄色い梅は、ほどよい酸味と芳醇な香りと甘味が加わり、梅ジャム・梅シロップ等に。

黄色い梅は、梅そのものの甘味が引き立ち、皮が柔らかく、梅干しに。

いろいろな梅を使って梅生活を楽しんでみてはいかがでしょうか。(菅原)



記念切手として残されているのが、アカスシキンカメムシ。艶のあるグリーンに赤い筋模様が美しく、触ってもほとんど臭いがしないおとなしい虫である。コブシの実がある所で見かける。何気なく見ている昆虫の活動から、植物と昆虫たちの共生や生物多様性について考えるきっかけになればいいなと思う。(吉田)

来月の見どころ
エサキモンキツノカメムシ
 夏が近づくとトンボやセミ、カメムシやアオバセリを見かける。カメムシと言えは臭いと思いがちであるが、それはカメムシが危険に出会った時に仲間知らずのため放つ臭いで、なかにはバーラ風、青りんご風、カラムル風等々驚くような香ばしい匂いを発する種類もいる。カメムシの中でも一度見てみたいと思うのが、背中にハート形の模様があるエサキモンキツノカメムシであろう。ミズキの木の葉裏を見ていると、黄色いハート模様の雄と白い模様の雌を見つけたことだってある。体長は13〜14ミリほどでとても小さいがハート模様を見つけた時の感動は忘れがたい。